

ウナギ稚魚、不漁続く

養殖業者向け価格 例年の2倍に

ウナギの稚魚、シラス
ウナギが高い。1月下旬
の養殖業者向けの問屋価

格は1^キ55万円前後と例
年の2倍近い。漁が解禁
された昨年12月から1月
下旬までの水揚げが例年
の約4割にとどまり、2
年連続の不漁となる可能
性が高まったためだ。

議会議調べ)は186^キ。
極端な不漁だった前年同
期の約2倍だが、例年よ
り6〜7割少ないとい
ろ。鹿児島県の12月の漁
獲量(水産振興課調べ)
も109^キと前年同期比
6割少ない。
中国や台湾で漁獲する
輸入品は1^キ80万円前後
と「普通の年の2倍近い」

(日本鰻輸入組合の森山
喬司理事長)。昨年は南
米沖の海水温が上昇する
エルニーニョで来遊量が
減ったもよう。今年の不
漁について、東京大学大
気海洋研究所の木村伸吾
教授は「中国の乱獲や河

川環境の悪化で産卵する
親魚が減ったと考えられ
る」と説明する。
「夏の土用の丑(うし)
には間に合うが、秋以降
は不透明」(専門商社)
との声が出ている。
愛知県一色町産の養殖

活ウナギの出荷価格は1
^キ当たり2650円と昨
年夏以降、高止まりして
いる。一色うなぎ漁業協
同組合の大岡宗弘組合長

は「一層の値上げは消費
減につながるため難し
い。2月にシラスウナギ
が取れるのを期待してい
る」と語る。



主産地である宮崎県の
1月28日までの漁獲量
(宮崎県シラスウナギ協
会調べ)
不漁が続けば、かば焼きの
値上がりにつながりそうだ
(愛知県一色町の養殖場)